

消 防

中央水槽隊
白井 裕隆 副隊長
うすい ひろたか



火を使うときは慎重に。

その気持ちを今より

ほんの少し強く持つてほしい



▲ 燃え盛る炎を前に、懸命な消火活動を行う消防隊

INFORMATION

地域の安全を支える 消防団員を募集しています

「自分たちのまちは自分たちで守る」という考えに基づき、地域で防災活動を行う消防団員を募集しています。普段は会社や学校に通いながら、消防活動の訓練や住宅の防火指導、応急手当の指導などに当たり、災害時には消防隊員と共に消火、救助活動を行います。地域における防災の要として、今後も活躍が期待されています。

【対象】18歳以上の方

【申込】各区の消防署へご連絡ください

火災出動を示す音声が届き、直ちに消防車に乗り込み現場に急行。人命救助と消火活動を行う——それが消防隊員だ。白井さんは4人でチームを組む水槽隊の一員。最優先の任務は人命救助だ。防火服をまとい、水を噴射しながら燃え盛る建物に突入する。「炎の中は本当に過酷」。肌が焦げるような熱気。声も掛け合えないほどの轟音。数センチ先の視界もないほどの煙……。建物の構造も分からない中、手探りで逃げ遅れた人を探検する。白井さんが、命の尊さをより強く実感したのは、消防隊員になって間もないころにアパートで起きた火災。火元近くで幼い子ども2人と、その母親が倒れていた。「早く救出しなければ!」仲間の隊員が子どもたちを、白井さん

が母親をすぐさま抱きかかえ救急車に運び込んだが、2日後に息を引き取った。「あの時のことは今も忘れられない。つらい経験だったが、だからこそ、火災現場に残された人を一刻も早く救出して、普通の生活を取り戻してもらいたいことが私の使命だと、さらに強く思うようになった」。人の命をいとも簡単に奪っていく火災。その原因は、料理中の不注意や寝たばこなど、日常生活のちよとした気の緩みにある。「火を使うときは慎重に——その気持ちを今よりほんの少しだけ強く持つてほしい。それが、自らの命だけでなく、大切な人や周りの人の命を守ることに必要です。これ以上、命を失わせたくない。そう願いながら、白井さんは今日も消防車に乗り込む。

DATA

平成22年
市内の火災件数 **640件**

最も多い出火原因は放火で、約4分の1を占める。次いでこんろ、たばこ、ストーブと続く。死者は22人、負傷者は135人出ている。